

坂口氏ノーベル賞

免疫のブレーキ役発見

生理学・医学賞 日本人6人目

【ストックホルム共同】スウェーデンのカロリンスカ研究所は6日、2025年のノーベル生理学・医学賞を、体内の過剰な免疫反応を抑えるリンパ球の一種「制御性T細胞」を発見した坂口志文大阪大特任教授(74)と米国の2氏に授与すると発表した。坂口氏の発見は、アレルギーや自己免疫疾患などの治療や、がん免疫療法の研究に発展している。

昨年平和賞を受賞した日 別教授(83)以来7年ぶり、本原水爆被害者団体協議会 6人目となる。

(被団協)に続き日本の受賞理由は「免疫応答を抑制する仕組みの発見」。賞は2年連続で、30人・団体となった。生理学・医学 坂口氏は、大阪大の自身の研究室前で報道陣に「非常

に名誉に思います」と述べたと見分ける目印となる分子「CD25」を特定し発表。その存在を立証すると、2000年に制御性T細胞と命名した。

坂口氏は、体を病気から守る免疫システムのうち、侵入した病原体などの異物を攻撃するT細胞を研究。正常なT細胞の中に、過剰な攻撃を抑える役割を担うものがあ

ることを発見した。授賞式は12月10日にスウェーデンで開かれる。賞金1100万スウェーデンクローナ(約1億7千万円)を3氏で均等に分ける。

1995年、他のT細胞



文化勲章受章が決まり、記者会見で笑顔を見せる坂口志文氏。2019年10月、大阪府吹田市

坂口 志文氏(さかぐち・しもん) 1951年1月19日、滋賀県長浜市生まれ。76年京都大学医学部卒。83年京都大で博士号取得、医学博士。米ジョンズ・ホプキンス大、米スタンフォード大などを経て、99年京都大再生医科学研究所教授。2007年同研究所長。11年大阪大免疫学フロンティア研究センター教授、16年特任教授。17年大阪大栄誉教授。08年慶応医学賞、12年朝日賞、日本学士院賞、15年カナダのガードナー賞、17年スウェーデンのクラフォード賞、20年ロベルト・コッホ賞など受賞。09年紫綬褒章、17年文化功労者、19年文化勲章。74歳。